

平成 25 年度第 2 回機器及び安全に関する委員会 議事録

日時：平成 25 年 7 月 12 日（金） 17:30～19:30

場所：日本超音波医学会事務局会議室

参加者（11 名、敬称略）：秋山いわき、谷口信行、工藤信樹、梅村晋一郎、石原謙、立花克郎、内藤みわ、名取道也、鎌倉友男、新田尚隆（記録）、永見哲男（事務局；今回より参加）

議事

1. 前回議事録確認（資料 1A-B）

- ・ 前回議事録を確認した。

2. 音響放射力検討小委員会報告（資料持参）

- ・ 動物実験の経過報告がなされた。造影剤併用時の心臓照射において起こる期外収縮について議論された。
- ・ 動物実験用温度測定システムを用いた予備実験について説明がなされた。摘出骨表面の温度上昇は、 $I_{spta,3} < 720 \text{ mW/cm}^2$ でも 1.5°C 以上となる場合があった。
- ・ 今後、心臓及び肝臓を対象とした再実験を予定。

3. 検査環境検討小委員会報告（資料 2）

- ・ 装置、周辺機器の調節による身体負担軽減（提言）の効果検証を行い、負担減少を確認。
- ・ 眼の負担軽減（提言）の効果検証について、検証方法と予備実験実施済み。
- ・ 提言の改定案検討中。
- ・ 提言の英訳版は 7 月中に完了予定。
- ・ 日本超音波検査学会向け提言の検討開始。

4. 経膈プローブの消毒法に関する小委員会報告（資料 3A-C）

- ・ 第 1 回小委員会を開催した。プローブ消毒に関する WFUMB ガイドライン案への対応のため、各種調査を行っていくこととなった。
- ・ 当該案に対する JEITA 超音波専門委員会の見解が示された。
- ・ 日超医ホームページでの公開については、当該案の正式採択後に改めて議論する。

5. 第 86 回学術集会におけるアンケートについて（資料 4）

- ・ 約 400 人回答。結果の分析を行い、今後の活動に役立てる。

6. ”The Safe use of ultrasound in medical diagnosis”の翻訳について（資料 5A-C）

- ・ 各章における翻訳関連作業の担当者を決定した。
- ・ 翻訳版は、日本超音波医学会会員のみに無償配布する方向で検討する。

7. 生体内圧力の計量単位（資料 6）

- ・ 生体内圧力(ただし血圧を除く)の法定計量単位としては、平成 25 年 9 月 30 日以降、mHg 及び mH₂O が使用できなくなり、パスカル (Pa)、N/m²、バール (bar)、トル (Torr) に移行することが経産省にて検討されている。
- ・ 厚労省から、mmHg など生体内圧力単位の使用状況について、工業会：日本医療機器産業連合会（医機連）に問い合わせがあった。その調査結果をふまえ、血圧以外の体内圧力についても mmHg 及び cmH₂O の使用が認められないか、厚労省と経産省の間で協議されているが、まだ結論は出ていない。

8. 「超音波診断装置の安全性に関する資料」の改訂について（資料 7A-B）

- ・ MI、TI 等の説明が分かりにくいという意見があり、改訂を行うこととした。
- ・ 改訂版では、図を多く用いて医療従事者に直接役立つ情報を提供するようにする。MI、TI の重要な数式を交えた詳細な説明は補遺として行うようにし、工学系会員にも役立つ情報を提供するようにする。

9. その他

- ・ 次回は 10 月頃を予定。

以上